

住民の視点による悩みや課題、幸福度、定住意欲等を数値化

# 第1回地域版SDGs調査2019

9月上旬・結果発表予定。先行申込受付中！

## 住民視点でSDGsを考えてみましょう

世界中で取り組まれているSDGs(持続可能な開発目標)。日本各地でもその取り組みが急務とされていながら、その内容は必ずしも住民の視点になっていません。

## 住民の悩みや、社会の課題を数値化

地域住民の視点で、「低収入」や「育児・子育て」「介護」など48項目に渡る生活環境における悩みを調査。また、「働き方」、「ゴミ問題」など社会における課題についても調査。都道府県ごとに、どのような悩みや課題が多いかを数値化しました。

さらに、住民として「幸せであるか」による幸福度や、生活の満足度、地域への愛着度、定住意欲度についても調査。都道府県のランキングを作成しました。

## 史上初・住民視点で地域を評価

地域ブランド調査を実施しているブランド総合研究所では、全国で初めて全国都道府県の住民(居住者)を対象とした大規模調査を実施(都道府県からそれぞれ約350人、計15000人が対象)し、住民視点による各地での生活環境や地域の持続性についての評価・分析を行いました。

## 住民視点での目標設定に活用

住民の悩みや社会の課題が、幸福度や愛着度、定住意欲度にどのように影響しているのかを分析し、そこから、住民視点での生活環境、社会環境を高めるための施策や方向性をまとめていくための指針としてもらいたい、それがこの調査の狙いです。

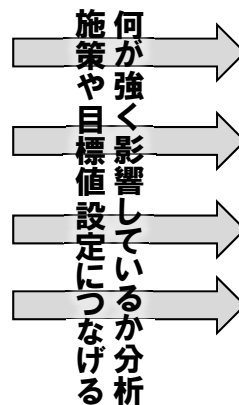
## SDGsの16のテーマ

※各項目ごとに住民の悩みまたは社会の課題につながる複数の項目を設定

貧困	技術
食糧・農業	不平等
健康・福祉	都市
教育	消費
ジェンダー	気候
水・衛生	海洋
エネルギー	陸上
経済・雇用	平和

(パートナーシップを除く)

住民の悩みや課題を数値化



住民として地域を評価

## 住民の視点で、生活環境と持続性向上のため 悩みや課題、幸福度、定住意欲等を数値化

**調査概要:** 調査方法:インターネット調査、調査時期:2019年7月12~29日、調査対象:47都道府県、回答数:約15,000人

**調査結果:** 総合報告書:68,000円(税別。A4判約240ページ程度)、2019年9月上旬発行予定

**調査項目:** ■基本指標:幸福度、生活満足度、愛着度、定住意欲度、SDGs認知度の5項目

■住民の悩み:①貧困、②食糧・農業、③健康・福祉、④教育、⑤ジェンダー、⑧経営・雇用、⑨技術革新、⑩都市の各テーマに関する評価項目を計48項目の他、「その他」「悩みはない」を加えた計50項目

(例:低収入・低賃金、生活習慣病、介護、育児・子育て、セクハラ、サービス残業、渋滞・混雑、電車やバス路線廃止等)

■社会が取り組むべき課題:②食糧、④教育、⑥水・衛生、⑦エネルギー、⑧経済・雇用、⑨技術、⑩不平等、⑪都市、⑫消費、⑬気候、⑭海洋、⑮陸上、⑯平和の各テーマに関する48項目と「その他」「課題はない」の計50項目。

(例:食の安全・安心、少子化、騒音、省エネ、働き方改革、知財侵害、人種差別、都市イメージの悪化、海洋汚染、詐欺等)

■回答者属性:性別、年代、居住地(各都道府県約350人)、婚姻、子供の有無、住居、年収、投資経験

調査の詳細は、右のQRコードから特設サイトをご覧ください。メールアドレスをご登録いただいた方には、最新情報をご案内します

